

広がる「MSBlast」ワーム

Windowsプラットフォームに存在したRPC(リモート プロシージャ コール：ネットワーク上のコンピュータの機能を使うための技術)インタフェースの脆弱性を悪用するワーム「MSBlast」の被害が引き続き拡大しています。

当初は米国での被害が主でしたが、日本国内でも広がりを見せているので、今後注意が必要です。Microsoftは、このセキュリティ問題の危険性(深刻度)を緊急レベルに設定しています。

はやくも数種類の亜種が登場

MSBlastが登場し、蔓延を始めたのは8月12日の早朝のことでした。それからわずか数日しか経っていないにもかかわらず数種類の亜種が現在確認されています。

基本的な対策

MSBlastについては、経済産業省や総務省も文章を公開し、警戒を呼びかけています。幅広い報道もあって、対策が必要だと感じている人も多いでしょう。

MSBlastは、ここしばらく猛威を振るい続けているKlezウイルスなどとは異なり、電子メールなどで感染を広めているわけではなく、また特定のWebサイトにアクセスしたから被害を受けるというわけでもありません。MS03-026のセキュリティホールが残ったままのPCでインターネットに接続しているだけで、気づかないうちに感染する恐れがあります。

エンドユーザーが行なう対策をあげれば、

- 最新のウイルス定義ファイルを用いてウイルスチェックを行なう
- Windows Updateなどを利用し、最新パッチを適用する
- パーソナルファイアウォールやブロードバンドルータで、TCP/UDP135、TCP139、TCP445、TCP593、TCP4444、UDP69の各ポートをフィルタリングする

これらを適切に実行していれば、特別大騒ぎする必要はありません。しかし、MSBlastの亜種も出てきているので、今後も注意していく必要があります。

編集者より：MSBlastはWindowsXP、2000のセキュリティホールから感染します。Updateは必ず行なって下さい。(田中)